

# 佐々木実

(ささきみのる)



撮影 高野宏治

## 略歴

一九六六年、大阪府出身。一九九一年に大阪大学経済学部を卒業、日本経済新聞社に入社。一九九五年に退社してフリーランスのジャーナリストに。宇沢弘文が主宰する同志社大学社会的共通資本研究センターに参加(二〇〇五―〇九年)。『市場と権力「改革」に憑かれた経済学者の肖像』(講談社、二〇一三年)で第四五回大宅壮一ノンフィクション賞、第二二回新潮ドキュメント賞を受賞した。

## 〈受賞のことば〉

「資本主義」を語れずして、「世界」は語れない。そんな時代になりました。ただジャーナリズムは本来、小さな事実を積み重ね出来事をとらえる。「資本主義」「世界」などという言葉をふりまわすのは邪道です。宇沢弘文の評伝を執筆する困難のひとつはそこにありました。それでもあきらめなかったのは、危機の時代に、独創的な経済学で自由主義思想を紡ぎ、世界に向かって発信したひとりの日本人がいたことを伝えるためでした。

宇沢弘文はわたしの先生でもありません。出会ってまもないころの話です。ふたりで食事して店の外に出ると、陽はとっぷり暮れていた。別れ際、先生がなにかつぶやいたけれども、車の騒音で聞き取れず、一歩近づいて耳をすませました。

「いっしょに、ココロザシをもってやろう」。たわいない会話のあとの唐突な言葉でした。碩学が「いっしょに」などと口にしたのも妙だった。でも、なぜか駅までの帰り道、心のなかで「ココロザシ」「ココロザシ」とつぶやきながら歩いていました。

「ひとりびとりのココロザシを大切にする」。それを可能にする社会を探究した宇沢弘文の経済学は新たな思想を生みました。『資本主義と闘った男——宇沢弘文と経済学の世界』は思想の書でもあったのです。